

らいつてその先にも滝がかりそうということで、このルンゼも調査対象としたのである。ところが、出合にかかる7mの滝以外には何もなく、期待にはこたえてくれなかった。

出合の7m滝は左岸の樹林帯を下る。下ってから直登に挑戦。ホールド豊富でいろいろにルートがとれそうであるが、今回は左岸を直登した。

581m独標に戻って、8:10左俣の下降開始。急斜面を5分も下ると沢筋に出た。

下り始めるとすぐナメ床となり、7m2段滝が出てくる。上段はクライミングダウンできたが、下段はちょっと無理。右岸の樹林帯を下る。幸先は良い。

しばらく下ると、今度は10m二段の滝が出てきた。ここはナメ状になっているので、なんとかクライミングダウンできた。そしてすぐ4m滝。ここもクライミングダウンした。

あとは暗い樹林帯を流れるだけの平凡な流れとなり、右俣出合へ。(記

[タイム] 山本不動(5:55)→三ノ沢出合(6:25)→左俣出合(6:35)→右俣終了(7:25)→左ルンゼ下降開始(7:40)→左ルンゼ下降終了(7:55)→左俣下降開始(8:05)→右俣出合(8:10)→南沢出合(8:55)

南沢支流 #1 沢右俣, 左俣

1986年7月5日

尾根上のかすかな踏跡をたどって、標高約690mの小ピークに出る。そこから三ノ沢に向けて下降開始。割合と急なブナ林の斜面を下ると、すぐ沢筋にでた。

三ノ沢も、ずっと花崗岩の沢である。小滝がほぼ等間隔に出てくるが、落差が小さい上、ホールド、スタンスがおおく、おまけにフリクションがよくきいて、楽にクライミングダウンできる。

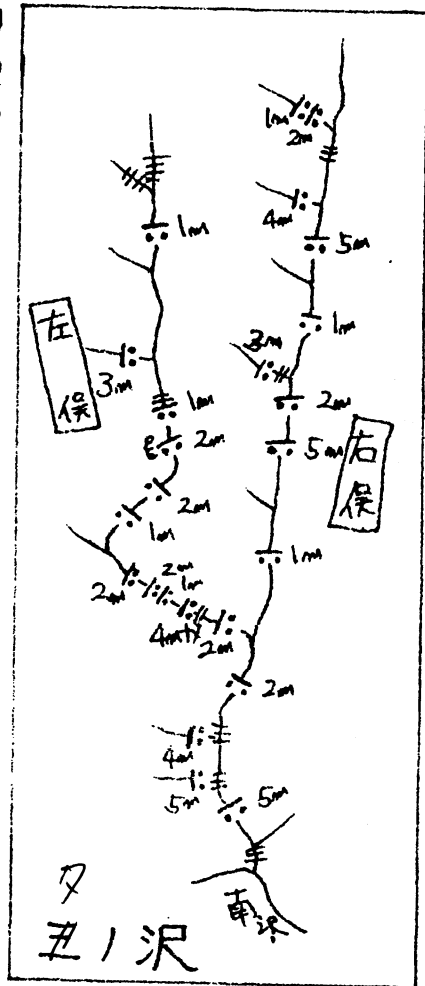
沢筋には、かつての林業用歩道の跡が切れ切れに続いている。この林業用歩道の跡というのがくせものである。木の枝を敷きつめて、その上に土をかけてあるのであるが、腐っていて、所々で足がズボッとめりこむのである。油断していると転倒するはめになる。もちろん、今では手入れなどされておらず、荒れるがままに放置されている。

30分程下って、左俣出合到着。ここでちょっと左俣の偵察に向かう。こちらの沢も花崗岩質で、出合からしばらくの間小滝がほぼ等間隔ででてくる。とはいうものの、せいぜい2m程の落差であり、フリクションもよくきいて、楽に登って行ける。

左に二本目の支沢を分けるあたりからはその小滝もかからなくなった。沢の流れも乏しくなり、暗い樹林帯の中を細々と続いているのみとなる。30分ほど遡行して、ほぼ源頭に達したので、小休止して引き返す。

左俣の偵察は約1時間で終了したので、再び下降を続ける。5mの滝をクライミングダウンし、ナメを越えると南沢との出合であった。

[タイム] 三ノ沢下降開始(7:50)→左俣出合(8:25)→左俣終了(8:55)→右俣出合(9:20)→南沢出合(9:35)



(記)

マナイタ沢

1986年5月25日

4:30, 出合に車を止め、明るくなるのを待ちかねて出発。出合は暗く、すぐ小滝をかけて雰囲気は上々である。マナイタ沢とは、名前からしてなんだかいわくありそうだし、期待できるかなと思ったのであるが、砂防ダムを越えたあたりから全く平凡な沢となってしまった。

とにかく何もない。沢を歩いていてもしゃくなので、並行している林道を歩い